

【部会審議結果報告案】

平成 24 年（2012 年） 月 日

札幌市環境影響評価審議会
会長 山舗 直子 様

厚別山本公園造成事業環境影響評価準備書
部会長 佐藤 哲身

厚別山本公園造成事業環境影響評価準備書に係る
部会の審議結果について（報告）

本部会は、平成 23 年 11 月 10 日開催の札幌市環境影響評価審議会において表記準備書の審議を付託されて以来、平成 23 年 11 月 24 日、12 月 14 日及び平成 24 年 1 月 19 日の 3 回にわたり慎重に審議を重ねてまいりました。

その結果、下記事項について環境影響評価書に反映されることが必要との結論に達したことを報告いたします。

記

1 建設機械の稼働に係る騒音について

予測に使用した「最寄り住宅」の南側に連なる住宅のうち最も南寄りの住宅位置では、現状の仮囲い（遮音壁）の効果がほとんど期待できない。

このため、この住宅への騒音伝搬予測を行い、その結果に応じて遮音壁の延長等の環境保全措置を講ずること。

2 自動車の走行に係る騒音について

評価において、整合を図るべき保全目標値を「自動車騒音に係る要請限度」としているが、「環境基準」とすること。なお、付近住宅に配慮し、適切な類型を当てはめて評価を行うこと。

また、予測結果と現況騒音レベルとの対比を行うこと。

3 自動車の走行に係る振動について

評価において、予測結果と現況振動レベルとの対比を行うこと。

4 騒音・振動に係る事後調査について

工期が 10 年の長期に渡ることから、予測に使用した諸条件が変動する可能性も否定できず、予測結果に不確実性がある。

このため、騒音及び振動の項目に関して、予測手法で設定した予測項目、予測時期、時間帯及び予測地点において同様の予測方法により事後調査を行うこと。

5 鳥類について

鳥類に関して、多くの種で事業地に集中して観察記録が見られており、また、関連地域については将来的に現状の環境が維持されることが保障されていない現況をふまえて、影響の予測評価を行うこと。

6 両生類について

エゾアカガエルは事業予定地の中にあるのり面下の側溝などにしか繁殖地を見出せない状況にある。このため、建設機械の稼働による影響について予測評価を行い、その結果に応じて、工事実施時期等の配慮を行うこと。

7 水生昆虫類について

事業予定地に隣接する山本川には土砂の流入に弱い水生昆虫類が生息している可能性があり、「建設機械の稼働等によって個体、個体群、生息地に及ぶ影響は軽微である」とは必ずしも言えないことから、建設機械の稼働による事業予定地からの土砂の流出防止等の配慮を行うこと。

8 生態系

1) 事業予定地の草原環境は、それを利用する草原性の鳥類などにとって貴重な生息地になっており、それを保全することが重要である。

「建設機械の稼働による草原環境へ影響予測」において、「工事は4工区に区分し、さらに整備区域を分割して進めていくこと、工事が完了した部分から緑化を進めていくことで適宜動物の生息環境を復元する」としているが、事業地における草原性の動物の生息環境が復元されるような緑化の内容なのか、評価書に具体的に記載すること。

2) 「地形改変後の土地及び工作物の存在による草原環境へ影響予測」において、公園造成により草原面積がかなり減少することから、「生態系への影響は軽微である」と結論づけることはできない。

したがって、草原環境に係る影響について再予測及び再評価を行うこと。